

令和6年度第1回カンボジア訪問報告

期日：7月1日（月）～5日（金）

参加者：足立泰敏、山本佳樹、近藤伴和、竹本昌三郎、^鶴田いづみ

現地協力者：山田瑞穂（現地在住）、楠川富子（現地在住）、ダイナ・チェイン（通訳）

主な日程：【第1日】チャイナエアライン台北からの出国約2時間遅れ、夕食会（+山田氏）

【第2日】王宮・キリングフィールド・セントラルマーケット JHP事務所訪問（お礼等）

【第3日】カンダールスタン教育庁 コークトロ小学校参観、バクー小学校（図書協力金贈呈）
昼食会（+教育庁関係者、校長、楠川、うどんハウスプロジェクト関係者）
チュンカイ小学校参観 夕食会（+楠川氏・息子）

【第4日】チュンカイ小学校再訪問 ロシアンマーケット メコン河畔 夕食会（+山田母子）

【第5日】帰国 21：20セントレア着 山本佳樹さん自家用車送迎、感謝。

訪問経緯 現地協力者山田氏及び楠川氏の仲介によるカンダールスタン市教育庁を表敬訪問し、その後3校の学校を訪問した。内、すでにバクー小学校は1月に訪問しており、学校の概要は把握済。学校規模が大きいこと、外国支援が非常に多く入っていることなど、本法人の継続支援には不向きな学校との思い。2校目のコークトロ小学校は、併設の中学校に韓国支援が入っていることも有り、2国で牽制し合いながらの支援は資金力のない本法人には適さない、など。3校目のチュンカイ小学校には、翌日急ぎよ再訪問し現地調査を行った。

チュンカイ小学校 — 「教育ソフト活用の可能性が広がる拠点校づくり」

①学校概要 農村地域の学校と直感したが、ほとんどの保護者が工場労働者。国道2号沿いの学区ということもあり、近年大きく変貌しつつある地域。児童数537人、職員15人（内講師5人）、保育園・中学校を併設、また、隣接の寺院とは敷地内相互乗り入れ状況。当地域というよりカンボジア全体と言った方がよいかもかもしれないが、正規教員は圧倒的に女性が多い。当校は全員が女性。とりわけ懇談に参加してくれていた若い副校長（7月より3か月間産休に入る）の有能さが際立っていた。杉浦修さんから寄贈いただいたプロジェクターも彼女と通訳との協働で使用の目途が立ち、当校にとっては大変貴重な贈り物となった。

②教育活動 農村地域とは異なり家族労働として吸収されることはなく6年間の就学率は100%に近い。児童537人中、学区内にある孤児院からの児童が約100人在籍している。この孤児院では、外国支援をもらっている関係で訪問者があるたびに学校を早退させることが多いとか。

本校では、図書館を活用した各クラス週2時間の国語教育を実施している。しかし、各教室には照明がなく、曇天・雨天時の学習には困難が伴い視力低下が心配されている。また、環境教育の観点からもゴミ焼却炉の設置を希望している。年1回学校説明会を実施し、地域、保護者から寄付を募り学校管理費の足しにしていると。学校長の説明から、本会の重要性が伝わってきた。

雑記 ①今回同行いただいた鶴田さんにおかれては、即座に本訪問の趣旨を理解いただき非常に適切な対応をいただきました。帰り際には、本法人への入会も一つ返事で応えていただきこれまた感謝、期待。②7月から入国カードのオンライン化が始まりアナログ爺さんはあたふた。鶴田さんを始め、ITに強い方々に指南いただきたい。

文責 足立泰敏